

農学博士 下田喜久三の誕生の背景

～農業と漁業の町いわないが育んだもの～

たか ひさ
下田尊久氏
元藤女子大学准教授
※下田博士のお孫さん



瑞洋食品研究所製 明鯛の子



2026
3.15 (日)
13:30～
文化センター

岩内町では喜久三はいつ頃からか「下田博士」と呼ばれている。

下田家初代の平民・仁右衛門は、戸籍法施行により下田姓を名乗り、二代目の仁三郎が戸主を継ぐ。仁三郎は金沢で漢方医小原正虎に師事し漢方医学を習得。父仁右衛門の没後「起業社」に加わり梨野舞納村（共和町前田）に移民として入植、翌年、開墾を断念し岩内に移る。この年に結婚し御鋒内町（万代）で雑貨商を始め、鍼灸治療にも携わったという。ここで兄豊松をはじめ、下田兄弟が誕生。彼らが活躍した郷土と兄弟達は、喜久三にどのような影響を与えたのか、また「下田博士」は現在の岩内に何を語るだろうか、探してみたい。



水産工業試験所内

